

第60回卒業式挙行

284名の卒業生 学び舎巣立つ



第89号
発行
令和4年
3月22日(火)
上田西高
新聞編集局
編集局長:藤田珠寿
新聞委員長:辺見咲良
櫻井 花音
大河内ひかり
豊田 葵

3月5日(土)に第60回卒業証書授与式が行われた。今年度は在校生や保護者へライブ配信を行い、感染対策を徹底しながら284名が式に臨んだ。3月4日(金)には配信での予餞会が初めて行われた。その様子は裏面でまとめた。(藤田珠寿)



理事長表彰を行う水野一成理事長(写真左)と受賞生徒 写真撮影=豊田葵

規模を縮小し配信も併用

今年度も新型コロナウイルスの影響を受け規模を縮小して行われた卒業式。今年は卒業生の保護者の来場を各家庭1名に絞り、在校生や保護者向けにはライブ配信を行った。

水野一成理事長は理事長告辞で「個性豊かなそれぞれの高校生活を過ごすことが出来た3年間を振り返っており、柔軟な感性とたくましさを感じました」と話した。

中山長年校長は学校長式辞の中で「自らを磨き、世のため、人のために貢献してくれることを期待します」と話し、不安だったが、生徒会

3学年主任として生徒の巣立ちを見届けた片桐拓磨先生は「去年とは違うところがあり、不安だったが、生徒会

の皆さんの太鼓や送辞がとても良かった」と話した。

式全体の配信を支えた小林稜弥先生は「先が見えない状態で進むことが大変だった。丁寧な作業に心がけ、配信する際のミスを止めることができた」、放送委員長の水村詩音さんは「事前準備で綿密な話し合いやり取りを何度も繰り返した」と振り返った。

生徒会サプライズ企画実施

生徒会役員は「この状況だからこそ逆に新しいことが出来ないか」という森下暁生徒会主任の言葉と、卒業生に感謝を伝えたいという思いから、サプライズ装飾を行った。

卒業式が行われている裏で、風船や傘、紙花で体育館から校舎までの渡り廊下を装飾した。担当の清水加菜さんが「決りがギリギリで、短期間で材料を用意するのが大変

だった」と話した様に役員は限られた時間の中、黙々と秘密裏に作業を進めた。実際に花道を通った卒業生は「カラフルで綺麗だった」と笑顔で話した。

また、本来であれば予餞会で全校生徒に披露するはずだった太鼓も中止に。しかし、最後に西高

伝統の生徒会太鼓で卒業生を送り出したという思いから退場する卒業生に向けて中庭で披露をした。限られた中ではあったが自分達ができる最大限の力を発揮し3年生を「笑顔」で送り出せたのではないか。

では、最後に西高



卒業式のライブ配信を行う放送委員 写真撮影=豊田葵

PTA・同窓会長 餞の言葉送る

岡崎謙一PTA会長は、過去の自分の体験を振り返り卒業生へ餞の言葉を送った。

岡崎さんは幼い頃からプロサッカー選手を目指し高校3年時にはインターハイに出場。

卒業生決意表明

式中、理事長特別表彰の受賞者を代表してプロ野球の読売巨人軍から育成ドラフト指名を受けた硬式野球部の笹原操希さんは「1軍で活躍して巨人を代表する選手になります」と決意を述べた。



卒業式で挨拶する笹原操希さん 写真撮影=辺見咲良

式後、前生徒会長の古越伸さんは「大学では自分の夢である消防士になるため、国家資格取得に向けての勉強を頑張りたい」と卒業後の展望を話した。また、3年間を漢字1字

で表すと?という質問に対しては、「命」です。担任の功刀先生から命を大切にしろという最後の言葉を頂いて、それを受け継ごうと思いましたが、答えが「命」だと答えてくれた。(藤田珠寿)



卒業生へメッセージを述べる岡崎謙一PTA会長 写真撮影=豊田葵

しかし自分の才能に限界を感じ大学では「遊び呆けた」という。就職も超氷河期であったため、1年間の浪人を経て東京都庁に就職。その後は上田の酒蔵へ婿養子に入り、現在は酒蔵の社長を務めている。

ここまで自分の人生を振り返ったあと「皆さん僕の人生なんてどうでもいいですよ?」

と続けた岡崎さん。「他人は自分のことを気にしていない。他人のことは気にせず自分の人生や進む道を自分で決めて行って欲しい」とメッセージを送った。

堀内雄一同窓会長は、卒業生に「大人になる自覚と責任を持ち、知識と経験、友情を大切にして欲しい」とエールを送った。(藤田珠寿)



生徒会によるサプライズ装飾 写真提供=生徒会

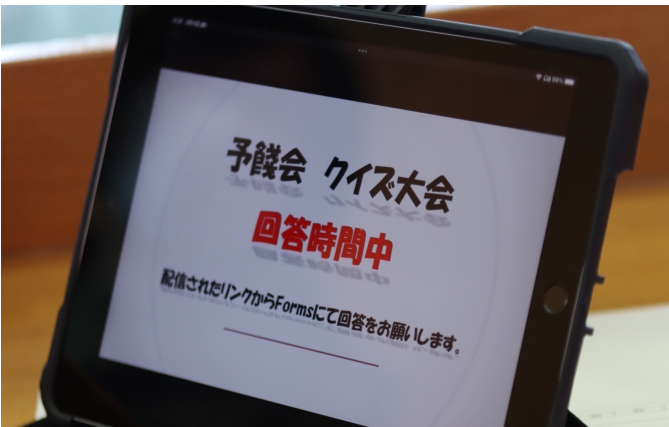
できることを工夫して実施した予餞会

感染対策のため初のオンライン開催

3月4日に新型コロナウイルス感染症防止対策のため、初めて配信という形での予餞会が行われた。一度は中止が検討されたが、卒業式を1、2年生に配信するのなら、予餞会も配信という形で行えるのではないかと声があがり、初めて「自宅にいる卒業生に配信」という形で行われた。配信予餞会では挨拶を行った。配信予餞会では「体育館での開催ではなかったが盛り上がる声などは聞



配信を行う放送委員、生徒会役員、放送委員会顧問の小林稜弥先生（左上）配信に使用されたビデオカメラ（右上）パソコンで配信の様子を確認する生徒会役員（左下）クイズ大会の様子（右下）写真撮影＝豊田葵・辺見咲良

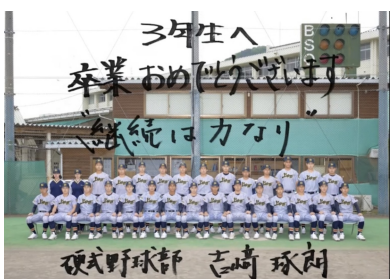


こえないのが残念だが、3年間を振り返り楽しんで欲しい」と話した。

副生徒会長で予餞会の統括を担当した宮坂乃愛さんは「この予餞会が配信に切り替わることで企画書を一から作り直したが、一人一人にしっかりと情報が共有できるような心がけた」と振り返った。また、3学年主任の片桐先生は「生徒会の皆さんに限られた時間の中で3年生を喜ばせようとしてくれた」と感謝気持ちを口にした。参加した3年生からは、「メッセージビデオでは今までの学校生活を振り返ることができた。すごく感動したし、昔を思い出せて楽しかったです」と話した。

超えるべきハードルは多かったが、この予餞会が生徒会役員にとって初めての学校行事だったとは思えないほど、素晴らしいスタートを切ったといえよう。

（藤田珠寿）



配信された各部活動の顧問の先生からのメッセージ

感動を誘うメッセージ動画

卒業生に予餞会で印象に残った事を聞くと、多くが「部活動メッセージ動画」と答えた。

各部活動の顧問の先生からのメッセージ動画は多くの卒業生を感動させた。担当の小澤紗也華さんは「顧問の先生からメッセージをもらうことで辛

かった過去や楽しかった過去など、色々な思い出を振り返ることができると話した。実際に予餞会を視聴した卒業生は「各顧問の先生個性があり、感動した」と話した。

卒業生に送った動画は部活動メッセージ動画の他に1、2年生で1クラス1文字ずつ撮影し繋げた「3年生ご卒業おめでとうございます」の言葉で卒業生を祝ったものや、卒業生の1年生からの写真や音楽と共に流すスライドショーも上映された。

浦和奏さんは、「卒業を惜しむけど前に進めるような、保護者の方は成長を感じられるような動画を作るような心がけた」と編集をする上でこのこだわりを話した。（辺見咲良）

クイズ大会、抽選会を実施

抽選会の様子
写真撮影＝豊田葵



クイズ大会では在校生の考えた上田西高校に関連するクイズが10問出題された。回答時間が10分間設けられ、クラス全体の正答率が1番高いクラスが優勝した。抽選会では、生徒会長と副会長2人の計3人が1桁ずつ段ボールから数字の書かれたボールを取り出して〇組〇〇番と読み上げた。3人はお面などを付けており、抽選会の場は明るく、楽しいものになっていた。

抽選は1等から7等まで行われ、全部で9人が当選。景品は、右図の通り。上位には例年同様豪華な景品が並んだが毎年恒例のデイズニーのペアチケットは社会情勢を鑑み用意されなかった。

参加した3年生からは、「クイズ大会では、今まで過ごしてきた経験を活かして解く問題があったので、楽しかった。抽選会も、自分が当たるかわからなかったのですが、ドキドキした」という声がかかれた。景品は卒業式当日当選者へ渡された。

（藤田珠寿）

クイズ大会結果

- 優勝 3年4組
- 準優勝 3年3組
- 3位 3年1組

抽選会景品

- 1等 プロジェクター
- 2等 無印良品 ソファ
- 3等 Bluetoothスピーカー
- 4等 タコ焼き器付きプレート
- 5等 ケトル
- 6等 一人鍋
- 7等 駄菓子セット